

希 望 要 望 項 目 一 覧

平成27年度11月補正分

要望項目	左 に 対 す る 対 応 方 針 等
【1】まんが王国とっとりを具現化するフィギュアミュージアムの実現に向けて、鳥取県として全力を挙げた支援を求める。	円形校舎の扱いに係る方針等について、今後倉吉市の考えをよくお聞きし、検討していきたい。
【2】日本一の売上を誇る産直市場を実現する取り組みを求める。	近年、JAや市町村等により、県内各地で地域の特色を活かした農産物直売所や道の駅の整備が進んでおり、県ではこれらの施設整備等に対する支援を実施してきた。 県産品の全県的な販売拠点施設としては、既に「地場産プラザわったいな」が整備されており、近年、周辺のスペースをを活用した食のイベントが数多く開催されることなどにより、来場者は増加傾向にある。 県としては、このようなイベント等の開催支援などにより、県内外からさらに多くの方々が来場され、にぎわいのある産直市場として発展していくよう協力していきたい。
【3】持続可能なコミュニティを維持するために、住民が地域づくりの先進地を訪れ学ぶ機会を支援する先進事例視察制度の充実を求める。	県内外の先進的な取組を行っている地域・団体を視察することは、地域づくり団体の活性化が期待されることから、より柔軟な対応ができるよう見直していきたい。
【4】学校体育の時間を増やすなど工夫と努力を重ね、子どもたちの運動時間を増やす取り組みを始められたい。	県教育委員会では、体力・運動能力調査の結果を踏まえ、体育の授業において運動量の確保や児童生徒の運動意欲の向上に繋がる活動を取り入れることや、体力向上推進計画書を策定して体力向上の取組を進めていくよう各学校に働きかけを行っている。 学習指導要領の制約もあり、体育の授業時間の増には限度があるが、始業前や中間休憩、昼休憩等を活用した取組など各学校の実態に応じた判断により運動時間・量を充実する取組が行われており、こうした取組を広げていきたいと考えている。 また、体力・運動能力調査では、運動時間の多い子は体力・運動能力も高いという結果を得ており、平成28年度当初予算に向けて特に運動する子としない子の二極化への取組を中心として、モデル地域（小学校）を指定して実践研究を行うなど取組の充実を検討する。
【5】ココ（心）カラ（体）げんき鳥取県を実現するために、健康マイレージ事業の拡充と普及を求める。	「ココカラげんき鳥取県・健康マイレージ推進事業」では、平成27年9月末現在、市町村7町、事業所577事業所が、その趣旨に沿って健康づくりに取り組んでいるところである。 健康マイレージ事業は、平成28年度、新たに4市町が実施の意向を示しており、19市町村全てにおいて取り組んでもらえるよう、市町村との意見交換等の場など、あらゆる機会を通じてPRをしていくとともに、健康づくりマップの作成など、制度の拡充について検討していくこととしている。 健康経営マイレージについては、協会けんぽと連携して引き続き参加事業所の拡大に努めており、平成31年度に1,000事業所の参加を目標に取り組んでいるところである。一方、他の保険者についても鳥取県保険者協議会を通じて、取組が広がるようPRしていく。
【6】県内の競技大会参加者の登録制度を新設し、リピー	日本海駅伝大会や鳥取マラソン大会等においては、大会へのリピーター促進策として、主催者が出

要望項目	左 に 対 す る 対 応 方 針 等
<p>ターや同窓会的参加者の発掘に務め、スポーツ愛好者の県内誘客を図りたい。</p>	<p>場者へのダイレクトメールによる次回大会への勧誘を行っている。 各種大会における現状の取組を確認し、リピーターを含めた誘客対策について大会関係者と話し合ってみたい。</p>
<p>【7】 県内介護保険事業者の経営状態の緊急調査を実施し、危機的状況にある事業者があれば、必要な救済策を講じられたい。</p>	<p>国の社会保障審議会介護給付費分科会等において、「介護事業経営実態調査」など今回の介護報酬改定の検証調査が順次行われる予定であるので、それらの結果について注視していきたい。</p>